

**編集部** 滑稽俳句を始められたきっかけは？

**飛田** 五十代から断続的に五七五（七七）を読んだり、ひねったりして楽しんでいました。「川柳マガジン」で八木健会長を知って以来、師匠の追っかけとなり、「俳壇」の「微苦笑俳壇」に投句。滑稽俳句協会には創立から参加しました。

**編集部** 滑稽俳句の魅力とは？

**飛田** 小三治、喬太郎、三三など落語も好きなのですが、頭のスイッチを切り替えないと、「まがいもの」の滑稽になります。滑稽俳句の場合は、笑いの裏のペースが何とも言えぬ魅力ですね。

**編集部** 俳句における「滑稽」とは？

**飛田** 庶民の生き様そのものが滑稽ではないでしょうか。その裏側にある喜怒哀楽を滑稽の中に詠み込みたいのですが、難しいですね。

**編集部** 滑稽俳句を続けて良かった事は？

**飛田** 体の方は、「日本ウォーキング協会」に入会して二十七年目。「歩く八十を応援する会」の世話人もしております。頭の方は、滑稽俳句でしっかり動かしておりますので、心身ともに元気いっぱいです。

**編集部** 滑稽俳句を作るコツは何でしょうか。

**飛田** 先人の言うとおりの「多読多詠」でしょうね。

#### 【代表句】

今日もまた一日が一世酔芙蓉  
日日好日これが曲者桜散る  
生身魂死を手懐けて生き延びる  
母看取る父の厨の冷し酒  
杖曳けば梅が杖突く奥の院